

ザ・商社

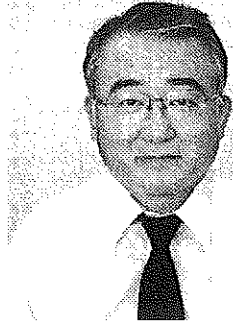
持続的成長をめざして

＝④＝

蒲田工業（本社・東京港区高輪、蒲田善明社長）は、1921（大正10）年初代社長の蒲田善蔵氏（昭和37年物故）が羽田調帯から独立して創業。戦後はゴムベルトの販売とともにベルトレーシングの製造を行う形で再開した。その後、得意先は石炭、鉄鋼へ紙、鉄鋼へと変化し、最近では印刷、化学、食品、フィルム、電機関係と客先が広がって

深耕力で収益を確保

先は石炭、鉄鋼へ紙、鉄鋼へと変化し、最近では印刷、化学、食品、フィルム、電機関係と客先が広がって



蒲田善明社長

9月期は前期まで落ちた。10

今年9月期は前期

蒲田社長は「当社が常に

熊本▽工場▽富士

蒲田工業

蒲田社長（55歳）は「記念行事は考えていないが、今年には東日本大震災があったことから、記念品として東北地方のお酒とお菓子を業界の皆さんにお配りしたい。被災地の支援に少しでもお役に

比6%増の29・7億円と復調しつつある。売上構成比は、工業用ゴム・樹脂製品が40%、省力機器類が40%、クリーンプー

今年（11年9月期）の足元は、今年4月までの7カ月間で売上高は前年同期比30%増で推移している。「売り上げは前年に

模索しているのが独自性を卒業後ニッパに入社し、将来の蒲田工業を引継ぐべく修行中である。「10年後の会社創業100周年で息子にバトンタッチしたい」と語る。

■蒲田工業の概要
▽創業 1921（大正10）年6月
▽設立 1943（昭和18）年10月
▽営業品目 工業用ゴム及び樹脂製品の加工・販売、省力機器類の設計・施工、設備の販売、クリーンプー

今期売上35億円を計画

WEB活用し新規開拓へ

立れば」と話す。最近の売上推移をみると、リーマン・ショック前は売上高が37・38億円あったが、リーマン後の09年9月期は28億円と落ちた。10

対して5億円増できている。これまで凍結されていた設備投資関連の需要が持ち直してきたほか、研究室や食品関連向けにクリーンプー

数が増え、さらに新規顧客の開拓につながっている。最近では毎月2・3社の大手企業の新規口座を開拓するなど、着実に成果を上げている。

一方、蒲田社長は今年で社長在任20年を迎える。昨年7月に2代目社長を務めた父親の蒲田善一郎相談役が86歳で逝去された。その遺志を継いで社長の子息の善太郎

安全教育に力注ぐ
また深耕力について、蒲田社長は「当社が常に